

# I 平成30年度の運営総括及び来期の課題

平成19年9月の開館から9月で丸11年を迎えました。今日まで、述べ46万人を超える来館者が、白根児童センターを利用してくれました。平日の午前中や土日を中心に乳幼児親子が多く訪れ、『リラックスカフェ』や『ちびっこ広場』、『ちびっこ体操』、『ちびっこ工作』などの定例行事のほか、『ちびっこ七夕』や『ちびっこプール』、『ハロウィン』、『ちびっこ運動会』、『クリスマス会』、『ちびっこ豆まき』、『ひな祭り』などの季節行事を楽しみに参加してくれる様子がみられました。また、午後からは、小学生が元気に児童センターに来館し、アリーナや図書室、工作室、集会室で元気に遊ぶ様子がみられました。アリーナでは、バスケットボールやバレーボール、サッカー、卓球、バドミントン、大縄跳び、一輪車、バランスボールなど、様々なスポーツで汗を流す姿が多く見られました。工作室ではジグソーパズルや塗り絵、自由工作のほか、ミニ凧作りを楽しむ小学生も多く、白根の伝統が子どもたちに受け継がれていることを実感しました。また、『作って遊ぼう』や『アリーナで遊ぼう』、『折り紙教室』などの定例行事のほか、『入学お楽しみ会』や『夕涼み会』、『小学生ハロウィン』、『クリスマス会』、『アリーナをきれいにしよう』、『お正月遊び』などの季節行事にも多くの小学生が参加し、同学年のみならず異学年で楽しむ姿が見られました。クラブ活動も、『イングリッシュクラブ』や『ピアノ連弾クラブ』、『ファンシークラブ』のほか、今年から『クッキングクラブ』と『ハンドベルクラブ』が加わり、子どもたちが生き生きと幅広く活動する姿が見られました。夕方からは中学生の来館も多く、アリーナでスポーツを楽しんだり、図書室や工作室で勉強したり、談笑する姿もありました。また、移動児童館で、近隣の保育園や幼稚園、学童クラブに出向き、カプラ遊びや音楽あそび、英語遊び、絵本ゲームを行ったり、子どもたちもボランティアで幼稚園や保育園に出向き、幼児さんと一緒に遊ぶ機会も設けました。遊びを通して、子どもたちは創造力や集中力を養い、学年や年齢が違う子どもたちが触れ合う中から、思いやりの心や譲り合う気持ちを育ててきました。子ども同士が集う中、時には自分たちで考え、行動をするよう促すことで、切磋琢磨しながらも成長する場面を目にしてきました。児童センターで過ごす子どもたちを見守る日々の中で、子どもたちの声に耳を傾け、時には叱咤激励をしながら、ともに歩を進めてきました。毎年、4月になると、まだあどけなさが残る新小学1年生の子どもたちが、元気に児童センターに駆け込んできたり、真新しい制服を身にまとい、新中学1年生や高校1年生が顔を出しに来る姿も見られます。小さいころから通っていた子どもたちが社会人になってからも、時折立ち寄っては笑顔で近況を話す姿も多くみられるようになりました。長い年月の中で、たくさん子どもたちと出会い、子どもたちの成長に寄り添ってきたごく当たり前の日常が、児童センターの中で過ごす子どもたちにとって、かけがえのない時間として積み上げていっていることを実感します。これからも、地域の中に根付いた児童センターとして利用者の声に耳を傾け、子どもたち、保護者の気持ちに寄り添い、誰もがほっとできる『居場所』としての役割を果たしていきたいと思えます。

## 1. 乳幼児事業

### (1) 総括

乳幼児親子の中には母親のみならず、父親や祖父母の姿も多く見られました。頻繁に足を運んでくれる親子も多く、来館するたびに子どもの成長を共に実感することが出来ました。南区の『子育てオーエンジャー☆みなみ』や『子育て安心ささえ隊 3739』の方々と連携を取りながら、子育てをする母親支援に努めてきました。また、講座・広場開催を通して、母親同士が情報共有できる仲間づくりにも焦点を当ててきました。

#### ① ちびっこ体操・ちびっこ広場・季節行事

ちびっこ広場は月に1回、11時から遊戯室で行いました。絵本の読み聞かせや手遊び、スキップ遊び、体操、ミニ工作など、毎回、企画内容を変えて、親子で一緒に楽しんでいます。また、お誕生会も行うことで、その月の誕生日の子どもはもちろん、他の親子も一緒にお祝いをし、子どもの成長発見の場にもなります。ちびっこ広場を通して、ママ同士の情報交換の場になります。また、季節行事である『七夕おたのしみ会』、『ミニミニ運動会』、『ハロウィン』、『クリスマス会』、『ひなまつり』、『お楽しみ会』は多くの乳幼児親子が集まり、賑やかに楽しんでいます。

#### ② 幼児対象 ちびっこ工作

毎月2回、連続した日に行っています。幼児向けの簡単な工作を親子で楽しみながら取り組んでいます。出来上がった作品は、その場で遊んだ後、持ち帰っています。家庭では触れる機会が少ないはさみを使うなど、指先を使った内容を取り入れています。また、牛乳パック・食品のトレーなど身近にある素材を使って、家でも楽しめる工作も提案しています。

#### ③ 保育園児・幼稚園児の交流会

7月の『七夕』に諏訪木保育園・カトリック幼稚園・白根保育園・あかねこども園・古川保育園の年中児が参加しました。また10月の『ハロウィン』では、『七夕』に参加した5園のほか、月潟保育園、そよ風保育園、小林保育園も加わり、計8園の年長児が参加しました。他園の子どもたちとグループを組んで、館内に用意された遊びやゲームを楽しみました。グループ行動の中で、他園の子どもたちとの交流はもちろんのこと、思いやりの気持ちと自立心が育まれるなど、子どもたちの成長を垣間見ることが出来ました。

#### ④ 移動児童館（カプラ遊び・英語で遊ぼう&音楽遊び）

児童館をより広く知ってもらうために移動児童館を行い、保育園・幼稚園・ひまわりクラブを訪問しました。『カプラ遊び』は、フランス生まれの積み木を使って、『つくってあそぼう』をテーマに、船を作って子どもたちが乗ったり、タワーを作ってビー玉ころがしなど、様々な遊びを展開させて、カプラの楽しさを伝えてきました。『英語で遊ぼう&音楽遊び』は、音楽に合わせて英語で歌を歌ったり、英語の指示でゲームをしたり、楽しみながら英語に触れてきました。各園から喜んでもらうことができたので、今後も継続していきたいと思

います。

⑤ 『白根コミュニティ協議会』との共催事業

12月に『ママのためのやすらぎタイム』を行いました。子育て中の母親がフラワーアレンジメントを体験しました。保育付きで母子分離の事業に母親自身がリフレッシュすることと、母親同士の交流を目的にしています。「自分の時間をゆったり持つことで、家族や子どもに優しくなれた。」「ほかのママたちとおしゃべりができてよかった。」との意見が多く聞かれました。講座終了後も、ママ同士終えたママたちの表情は明るくなっていました。

⑥ 『子育て安心ささえ隊<sup>みなみく</sup>3739』との共催事業

7月に『ママヨガ』の講座を母子分離で行いました。ヨガのインストラクターの指導の下、日頃子育てで疲れている体をリラックスさせたり、メンテナンスする方法を教えてくださいました。『子育て安心ささえ隊3739』の活動を通して、「子育て中の母親が元気になってもらいたい。」という思いを胸に共催で実施しています。

⑦ 『子育てオーエンジャー☆みなみ』の方々との共催事業

5月、7月、3月の3回『ほっぺちゃんひろば』を開催しました。ハンドトリートメントや絵本読み聞かせ、ピアノ演奏、助産師の方による講話を行いました。ハンドトリートメントは、リラックス効果もあり、とても好評でした。ピアノ演奏中は、子どもたちも、母親と一緒に静かにピアノに耳を傾けていました。助産師の方の講話には、多くの母親が訪れ、育児相談をしたり、子ども同士を遊ばせたり、母親同士も話を楽しむなど、つながっていく様子がみられました。来年度も継続事業になります。

(2) 来期の課題

母親支援と親子のふれあいを重点に、地域とともに講座や広場、行事を執り行ってきました。休日を中心に、父親と幼児と一緒に来館する姿を多く目にします。行事や季節のイベントに、父親も一緒に参加する様子も見られました。今後、母親のみならず、祖父母や父親が参加してくれるような行事内容を考えていくとともに、父親向けの講座の開催を考えていきたいと思います。男性の視線で子育ての意見交換の場を設けていきたいと思います。

2. 小学生事業

(1) 総括

塾や習い事に通えない子どもたちが目につく地域課題から、学習支援に取り組み、安心して学ぶ機会を作ってきました。また、白根コミュニティ協議会から金銭面で協力していただくなど、幅広い事業内容で取り組むことができました。核家族化で共働きが多く、子どもたちが日中を安心安全に過ごせる場として、児童センターが『第二の我が家』のように過ごす子どもたちの姿が見られます。今後も、子どもたちの成長に寄り添い、地域の中で子どもたちが健やかに育つ『居場所づくり』に力を注ぎたいと思います。

## ①自主クラブ活動

### 【ピアノ連弾クラブ】

ピアノ連弾クラブは8年目になりました。12月のラスベックホールでの音楽発表会を目標に、職員の指導の下、ピアノに触れて音楽を楽しんできました。発表会が近づくと、自主的に練習に訪れる子どもも多く、年々難しい曲に挑戦してきました。200名を超える観客の中、ステージで全員がしっかり弾くことができました。また、3月に遊戯室でスプリングコンサートを行いました。いろんな場面で発表できたことで、子どもたちの達成感と自信につながりました。大きな目標に向かって、お互いを思いやりながら連弾する素晴らしさを体験させることができました。

### 【イングリッシュクラブ】

白根コミュニティ協議会主催で、小学4年～6年生を対象に行いました。月に2回、講師の指導の下、テキストを使って英語の学習を行いました。英語に親しみながら、簡単な単語を使って話すことを目標にしました。12月のクリスマスコンサートでは英語の歌を披露したり、3月の発表会では、英語劇やスピーチを発表しました。保護者やひまわりクラブ、地域の方々が多数見に来てくれました。保護者からも好評で、来年度も引き続き開催できるように計画していきたいと思います。

### 【ファンシークラブ】

小学1年生～5年生までの10名が、小物入れやヘアバンド、スクイーズなどを手作りしました。2月の冬まつりでは、今まで作った作品を展示し、多くの来場者が見て楽しんでいただきました。

### 【クッキングクラブ】

小学3年生～5年生までの10人が参加。白根地域生活センターの調理室をお借りし、食育の一環として、チョコパイやホットケーキ、プディングなどを作って食べました。

### 【ハンドベルクラブ】

小学2年生～5年生までの11人が参加。童謡やクリスマス曲など様々な曲に挑戦し、幼児の七夕会やあきまつり、幼児クリスマス会、クリスマスコンサートでハンドベル合奏を披露しました。

## ②子ども会議

イベントを企画するときに、子どもたちに声をかけて、行事の内容を話し合ってきました。子どもたちの意見を尊重しながら内容を決めています。子ども目線の意見も多く出てきて、自分たちが楽しめる企画を話し合います。また、イベントにボランティアとして参加するなど、子どもたちの自主性と協調性が活かされる場になっています。

### ③その他の行事

アリーナが開放されている期間、毎月、『スポーツ大会』を開催しました。ドッジボール大会、ドッチビー大会、バスケットボール大会、卓球大会、サッカー大会など、様々な競技に取り組んできました。低学年、高学年、中高生と学年で分けて行いました。チームプレーで仲間同士助け合ったり、全力で打ち込む様子がみられました。

季節の行事の『夕涼み会』、『ハロウィン』、『クリスマス会』、『お正月お楽しみ会』も、子どもたちの意見を取り入れながら行いました。『レクダンスを楽しもう』では、高齢者の方と触れ合う機会を設けて多世代交流を行いました。『あき祭り』や『ふゆまつり』では、ボランティアとしてまつりを盛り上げてくれました。

### (2) 来期の課題

毎日、沢山の小学生が来館し、様々な遊びを楽しんでいます。日々の子どもの様子を観察し、変化を見落とさないように、注意深く見守っていききたいと思います。また、日頃から保護者とのコミュニケーションをとることはもちろんのこと、地域の方々にも協力を仰ぎながら、多くの大人の目で子どもたちの成長を見守っていきます。小学校やひまわりクラブとも情報交換をしながら、連携を密にしていきたいと思っています。

## 3. 中・高生事業

### (1) 総括

中高生の中には、開館当時から長年児童センターを利用している子どもたちが多く、職員との信頼関係も強く、職員と会話を楽しむ様子も見られます。『スポーツ大会』や『アリーナをきれいにしよう』、『中 3 ミニ遠足』などの行事では、多くの中高生が参加し、仲間との時間を楽しんでいました。また、中高生タイム（6時から7時）では、アリーナでスポーツを楽しんだり、定期テスト前には、職員に勉強を教えてもらうこともありました。アリーナが中高生でいっぱいになるくらい、スポーツをすることが楽しみで訪れる子どもたちが多いのも児童センターの特徴だと思います。『クリスマスコンサート』、『子どもなつまつり』、『ふゆまつり』などの行事に、ボランティアとして自主的に手伝ってくれる頼もしい姿も見られました。

### (2) 来期の課題

アリーナが閉鎖している期間、体を動かす機会が少なくなります。また、利用できる部屋が制限されることもあり、中高生の『居場所作り』が課題になってきます。今取り組んでいる学習支援に力を入れていくほか、中高生タイムの時間を使って、シアターやダンス、ピアノの時間などを取り入れるなど、できる限り子どもたちのニーズに応じていくことで、『居場所』としての役割を果たしていきたいと思っています。

## 4. 地域との連携事業

### ①大風合戦協会との連携事業

毎年、白根大凧の本新蝶組に協力していただき、児童センターとして白根子ども凧合戦に参加しています。

②白根コミュニティ協議会との共催事業

- ・クリスマスコンサート（前述）
- ・ママのやすらぎタイム（前述）

・しろねふゆまつりは、乳幼児親子から小中学生、近隣の方々の総勢 609 名が訪れました。遊び・工作コーナー、販売コーナー、展示コーナー、フードバンク、シアターに、沢山の列が出来ていて、子どもも大人も楽しんでいました。当日は 75 名のボランティアや関係団体の方々がブースのお手伝いをしてくださいました。

③白根地区社会福祉協議会との共催事業

- ・高齢者との多世代交流事業『レクダンスを楽しもう』

「白根健康サークル」の方々の企画で子どもたちとダンスやゲームを楽しみました。

④白根健康福祉センター・白根ひまわりクラブ合同事業

- ・しろねあきまつり

地域の福祉団体やサークルの方々との共催で、9月にあきまつりを行いました。中学校吹奏楽部のオープニングの後、歌やオカリナ、レクダンスの発表、小学生によるハンドベルやダンス発表のほか、販売コーナーや大抽選会など、多くのブースに 1000 人を超える来場者が訪れ、館内はにぎわっていました。

⑤ボランティアとの連携事業

- ・こどもなつまつり

夏休みの最終週、こどもなつまつりを行いました。おばけやしきや射的、スーパーボールすくい、工作コーナーなどの遊びブースのほか、かき氷配布など、全コーナー無料で 463 名の来場者に楽しんでもらいました。当日は 30 名の大学生や地域のボランティアのほか、10 名の小学生ボランティアがブースを手伝ってくれました。